

これが敵基地攻撃能力

「専守防衛」どころか日本が脅威に

5年間で43兆円の大軍拡。岸田政権が購入する兵器は、日本が攻撃されていないのに他国の領域まで踏み込んで攻撃する「敵基地攻撃」兵器がズラリ。

【戦後初めて「空爆」が可能に】

敵基地攻撃の一番のカギは、長射程ミサイルです。最初に導入されるトマホークは、イラクやアフガニスタンなどの先制攻撃戦争で繰り返し使用。「12式地对艦誘導弾」という艦船を破壊するミサイルも射程を1000^{キロ}を超に延ばします。

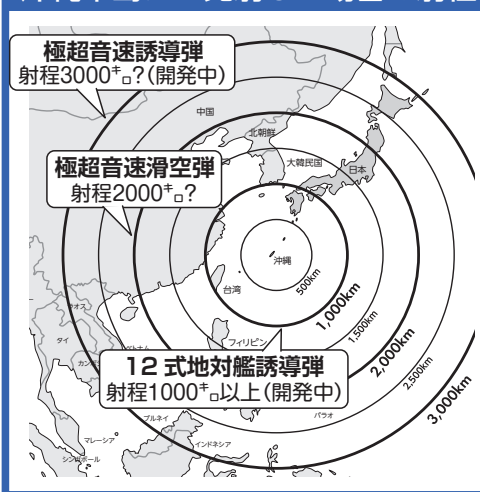
もう一つの問題は、ミサイルを搭載するイージス艦、戦闘機を大量配備し、潜水艦からも発射しようとしていること。相手国近くまで移動。日本が戦後初めて「空爆」が可能になります。

【迎撃不可能な“最悪の兵器”】

その先には、さらに恐ろしい計画が。「極超音速」ミサイルの保有です。

トマホークの速度は音速の4分の3程度ですが、極超音速兵器は音速の5倍以上。射程は2000~3000^{キロ}。軌道も自在に変えられ、迎撃は不可能とされる最悪・最強の兵器。中国、ロシアは既に配備しています。「中ロがこの兵器を持つことが脅威で、日本が持つことがなぜ脅威でないのか」。志位和夫委員長の質問（1月31日、衆院予算委）に首相は答弁不能でした。

沖縄本島から発射した場合の射程



一軍拡の悪循環 最後は核武装

現代の戦争は「ミサイル戦争」です。米ソの核ミサイル競争、米国と同盟国による「ミサイル防衛」網の構築、さらに中ロがこれを突破するため極超音速兵器を配備し、日米も同じ兵器で対抗する一。日本は「盾」だけでなく「矛」で、米主導のミサイル戦争に参戦しようとしているのです。

こんな軍拡を繰り返せば、核兵器武装論に行き着かざるを得ません。「岸田大軍拡」を、力を合わせて止めましょう。

志位委員長が記者会見

共産党の志位和夫委員長は、「大軍拡は従来の方針の大転換なのに、国会と国民に一切の説明がないまま強行するのは許されない」と批判しました。（16日）



会見する志位氏



敵基地攻撃に活用する巡航ミサイル・トマホーク

志位氏が指摘したのは、①長距離巡航ミサイル・トマホークの一括購入の政府方針②自衛隊施設で「スタンドオフミサイル」を保管する大型弾薬庫10棟を整備するとの報道。「非常に深刻なのは、どちらも国会で中身を明らかにしようとしていないこと」です。トマホークは購入数や単価が不明で、弾薬庫はどこに置くか示されていません。弾薬庫は標的にされる危険もあり、地域にとっては大問題。政府は長射程ミサイルの開発を進めていますが、取得数も射程も配備先も明らかにしようとしません。

志位氏は、「肝心な中身は全部ブラックボックスだ。国民に白紙委任を求めるやり方で、敵基地攻撃能力の保有に走っている。やり方の面でも民主主義の国では許されない」と批判しました。

説明抜き強行許されない

日本共産党